

神奈川大学派遣交換留学生 近況報告書（初回）

所属	外国語学部	英語英文学科	学科 専攻
派遣先大学 (国)	カリフォルニア大学アーバイン校 (アメリカ)		
所属プログラム・ 学部・研究科	10-week ESL		
報告書提出日	2019年04月20日		
留学予定期間	2019年04月～2019年09月		

## 1. 渡航について

### 1.1. 出発前の準備

出願料・宿舎デポジット： 3380 (ドル) /合計

航空券代： 160000 (円) /合計

ビザ申請関連費： 300 (ドル) /合計

その他 ( )： (通貨入力) /合計

ビザ取得の際に残高証明書は必要でしたか？ はい いいえ

「はい」の場合、いくらの残高証明書を作成しましたか？ 100万 (円) /合計

10月下旬に派遣先大学からガイドブックが届いた。

11月中旬に受け入れ許可証が届いた。

12月初旬に I-20 が届いた。

2月初旬に VISA 申請を終えた。また、現地で使用する sim カードの申請も済ませた。手順や持ち物はアメリカ大使館の youtube 動画を参考にした。面接日から約一週間ほどでパスポートが返却された。持ち物は、I-20、SEVIS の領収書、面接予約確認書、VISA 申請確認書、パスポート、顔写真。

3月中旬に航空券の予約を済ませた。指示があるが、オープンチケットを購入。

### 1.2. 渡航について

航空券は格安で購入。出発は成田国際空港からの 18:30 の便。

ダラスでいったん乗り継ぎ、そこからジョンウェイン空港に向かった。

現地に到着したのは、20時半ごろ。

入居日まで一日あったので航空券と同時に予約した空港近くのホテルに一泊。

タクシーより UBER の利用者が多い。というのも、安価で比較的安全だからだ。

なので、ホテルまで UBER を利用した。UBER の費用は大体 9 ドル。

一泊後、入居先のアパートへ向かった。

## 2. 到着後の手続きについて

### 2.1. 寮・ホームステイ等への入居手続き

入居先の手続きは、渡航前にすべて終わらせていた。

私の場合、大学が提供する不動産のアパートでサイトにいくと、簡単に手続きは終わる。

支払いはデポジットとして、650ドルでした。

家賃は3か月契約で、2580ドル。

入居日にルームメイトを紹介され鍵を渡された。

現地に来て、他の留学生に聞いたところ、アパートに直接申し込むと、1か月600ドルくらいなので、直接入居先に問い合わせることを薦める。

設備には特に困らない。プールやテニスコート、ジムなどがある。近くにスーパーもある。

### 2.2. 滞在許可・外国人登録の手続き

特になし。

### 2.3. オリエンテーション・学生登録・プレイズメントテスト等の学内手続き

4/3 プレイズメントテスト 内容は、Listeninig, Writing, Reading, Essay だった。  
クラスは1~7までである。テスト後、大学の施設を軽く案内され、昼食を皆で食堂にて食べる。  
その後、大学で行われる各イベントの説明があった。

4/4 クラス発表。クラスは午前組と午後組に分かれている。

4/8 授業開始。

## 3. 目標について

### 3.1. 留学の目的、達成目標

目的は、アメリカの生活、言語、文化を自分の肌で感じ、異文化に直に触れること。  
また、様々な人種間の交流をすること。  
達成目標は、TOEIC でいうと 850 点、TOEFL ITP でいうと、550 点。  
洋画を英語でも理解できるようになる。

### 3.2. これまでの学習・研修目標および達成度について

KU TOP ENGLISH に 2 年生の 1 年間参加。  
検定の点数は正直留学生として相応しいものではなかった。  
机に向っての勉強も、ネイティブスピーカーとの対話もどちらも必要である。  
多くの単語に触れる機会を作り、それを自分が使うようにする。

### 3.3. 今月の学習・研修目標

今月は、授業で学んだ単語や、イディオムを会話の中で取り入れることに専念した。  
また、英語で映画を見たり、ルームメイトと出かけたりし、外出の機会を増やし、自分の耳が英語に触れるようにした。

## 4. 学修について

### 4.1. 授業時間割

現在の学期	前学期
月	Reading&Vocabulary Listening&Speaking Grammer&Writing (13:00~16:50)
火	Reading&Vocabulary Listening&Speaking Grammer&Writing (13:00~16:50)
水	Reading&Vocabulary Listening&Speaking Grammer&Writing (13:00~16:50)
木	Reading&Vocabulary Listening&Speaking Grammer&Writing (13:00~16:50)
金	Reading&Vocabulary Listening&Speaking Grammer&Writing (13:00~16:50)
土	
日	

### 4.2. 授業について

#### Reading&Vocabulary

教科書は、2冊。1冊は、Readingで、もう1冊はTorumpet Voluntaryという小説。

時間は、50分。基本的には、教師からプリントを渡され、その課題を授業で行う。その際には、3~4人のグループに分かれる。毎週木曜は、小説の章の説明。金曜は、宿題で出された章に関するプリントをグループで話す。授業の最後に小テスト。

#### Listening&Speaking

教科書は1冊。時間は、80分。YouTubeの動画をリスニングの勉強としてみたりする。また、教科書のCHAPTERの内容を進める。スピーキングの勉強は、プレゼンを行ったりする。

#### Grammer&Writing

教科書は、2冊。1冊は、Grammerに関して、もう1冊は、Writingに関する。

時間は、80分。

Grammerの内容を主に進めている。Writingは進みは遅い。

どの授業もそこまで難しくはない。内容は、日本の大学と同じくらいである。

質問も快く聞いてくれる。

また、クラスの大半が日本人であるため、日本語での会話を避けるようにすると良い。

日本人以外ではアラブ系と中国人がいる。一部ではあるが、遅刻したり、授業中抜けだしたりと日本人には少ない行為もあり、少しストレスを感じる人もいるかもしれない。

### 4.3. 予習・復習・自習について

#### R&V

予習は小説を読むことが多い。また、単語を調べておくこともある。

復習は小説を読むことで、授業で使用した単語を見返すこと。

自習は小説を読み進めること。

#### L&S

予習は特になし。

復習は課題をメインに進めて、指定された動画を見る。

自習は映画を見ること。

## W&G

予習は教科書を読み進めること。

復習は宿題で補えている。

## 5. 生活について

### 5.1. 衣食住について

住居	民間アパート（その他：        ）
----	----------------------

到着後、3日ほどは眠気に襲われたり、疲労感が抜けなかった。

また、スーパーがあるとはいえ、日本より物価が高いため、満足に毎日3食食べられない。

気候は毎日晴れていて、とにかく日差しが強いので肌をケアするものは揃えていくと良い。

しかし、朝、夜は寒いので、一着羽織るものを用意すべき。

また、どこへ行くにも距離が遠いので、授業が始まる前に自転車を購入することを薦める。

日本食はどれも高いので、ファストフードに頼りがちになるが、なるべく食事に気を遣う方がよい。

### 5.2. 課外活動について

家で課題を行う。アパート内にあるプールに入って、リラックスする。

アウトレットやビーチにも出かける。

夜は映画を見たりする。

イベントは大学が提供しているものもある。

また、J-BEST CLUB という学生が日本人向けの活動を行っている。

### 5.3. 現在までの感想

クラス内の日本人が日本人同士でコミュニティを作ろうとするのが、悩みではある。

アラブ系の生徒は遅刻が多かったりして、ストレスの要因になっている。

また、就活ルールが今後どうなるのか情報がないので、不安ではある。

そのため、情報収集は常に行っていきたい。

以上

神奈川大学派遣交換留学生 近況報告書 (6月)

所属	外国語学部	英語英文学科	学科 専攻
派遣先大学 (国)	University of California (アメリカ)		
所属プログラム・ 学部・研究科	10 week-ESL		
報告書提出日	2019年 6月 16日		

## 1. 目標について

### 1.1. 留学の目的、達成目標

私が今回留学した目的は、英語英文学科として英語を学ぶにつれ、日本の英語教育の現状でどれだけ英語が通じるのか挑戦したかったことと、アメリカという、短い歴史の中で世界の経済大国にまで成り、人種のるつぼといわれるほど多様な人種の人々が住み、多様な文化が混ざり合っている国に大変興味が湧いたからだ。また、近年日本では移民法施行に向けて動いているが、先述した多様な人種が住むアメリカから、移民問題について学べることを現地で自ら体験し、考察したいと思ったからだ。また、渡航前に受験した TOEFL ITP では点数が 500 点を下回った結果だったので、帰国後受験する際は、540 点をとれるよう目指す。TOEFL ITP だけでなく、TOEIC でも 800 点を超えるように努力する。

### 1.2. 先月の学習・研修目標および達成度について

5月はず変わらず Reading&Vocabulaly, Listening&Speaking, Grammar&Writing の3つの授業が行われた。

Reading&Vocabulaly では、月曜日から木曜日までは Reading の Chapter6 を読み、内容はリスクを取ることにあった。読み始める前に、まずは単語をゲーム形式で解いていく。のちに、本文を読み進め、先生が作った独自の問題を解きつつ教科書に記載されている問題にも取り組み、語彙力を高めつつ文章の読解力の向上に努めた。金曜日は、Trumpet Voluntary という小説を読み、小テストに答える内容だった。5月は、第6章から第8章までを読んだ。

Listening&Speaking では、TED Talk や TEDED を使用し、Listening の練習をし、聞いたのち、クラスメイトと4~5人のグループになり内容について話し合いながら確認をした。また教材として、アメリカのドラマのシーンの一部を用いて、よりネイティブスピーカーに近い話し方を学んだ。それと同時に、海外の音楽を聴き、どこで Linking や Reduction が発生しているかを学び、ネイティブスピーカーに近づく話し方を練習した。Speaking では、そのドラマの役を真似て、自分たちの発音をネイティブスピーカーに近づける練習をし、クラスの前でグループごとにその役を演じた。さらに課題としてプレゼンテーションも行われ、内容は五日間何かしらに挑戦し、その日々の気持ちと五日間を通しての感想を発表するものだった。

Grammar&Writing では教科書の問題を解き進めた。今月は形容詞節を学んだ。主に宿題で問題を

解き、その後授業内でグループを作り回答の確認をし、先生が解説をした。Writing ではテーマを比較する構成のエッセイの書き方を学び、最終試験に向けての練習として約 3 ページのエッセイを書いた。

各科目の小テストの結果をアプリケーションで確認できるのだが、ケアレスミスなのか満点とはいかないこともあり少し残念だった。授業で習った新しい単語を日々のクラスメイトとの会話や、ルームメイトの会話で使用しながら理解を深めつつ記憶するよう努め、実際に身につけていると実感している。

### 1.3. 今月の学習・研修目標

**Reading&Vocabulaly** では、最終試験に向けて単語の総復習を行う。意味と品詞等を再確認した。教材として使用している小説の第 9 章から第 10 章を読む。これらの章は少し理解するのに難しかったため、先生と共に時間をかけながら読み進めた。やはり小説や教科書で出た新しい単語を日々の生活で使用できるようにしたい。

**Listenig&Speaking** では、TED Talks や映画を見てリスニング力を高めたい。テストの点数は振るってはいけるものの、ネイティブとの会話では聞き取れないこともしばしばあるので、一所懸命に頑張りたい。**Speaking** では自分の発音がいかに本物と近いのかを測ることはできないので、実際の会話で試して通じるのかを積極的に行う。

**Grammer&Writing** では、最終試験が控えているので、授業中に学ぶ文の作り方や役割などのことを吸収し、満点を目指して頑張りたい。**Writing** は神奈川大学でも学んでいたからこそ、エッセイの書き方を改めて学ぶつもりで取り組み、日本にいたときのものより上達するようにする。この科目は残念ながら各テストの点数は確認が出来ず具体的な点数は述べられないが、+A を目指して構成をよく練り努力したい。

## 2. 学修について

### 2.1. 授業について

**Reading& Vocabulaly** : 教科書と 100p ほどの小説を教材として授業を行う。先述した通り、月曜から木曜までは教科書を読み進め、新出単語の意味を本文から予想し、先生から配られるプリントでさらに意味やどのように文で使われるかを学んだ。今月は **chapter6** で成功者とは如何にして成るのかを考え、リスクを取り続ける人について話し合った。グループごとに分かれ、意見を交換し合った。また教科書に関連する動画を先生がプロジェクターに投影し、世の中にいるリスクテイカーの例を見た。2 週間かけて 1 章を終わらせる進度である。小説は総じて第 6 章から第 10 章までを読んだ。先生曰く、第 10 章がこの小説の最大の盛り上がりだということで、第 10 章に関しては 2 週間ほどかけた。前回からの変化といえば、グループを作るときに数字でランダムに決めていたのが、先生から生徒を指定してグループを作ることになったくらいである。というのも、クラス内はやはり日本人が大半を占めているため、積極的な日本人生徒とそうでない日本人生徒と少しいざこざが生じたからである。他は特に変化はなく、テストが毎週行われ、達成度を簡単に測れた。

**Listening&Speaking** : 教科書を進めつつ、先生が youtube や TED から参考動画を見せ、リスニングの練習をした。スピーキングでは、**Linking** や **Reduction** を学び、よりネイティブに近い話し方を練習した。その教材として、アメリカのドラマを視聴し演者の会話を聞き真似して話すことをした。それを

グループごとに行きクラスの前で発表し、それが評価対象になるのである。教科書は、リスニングの部分をクラスで解くと同時に、教科書に載っている新出単語を学んだ。新出単語を学んだ翌日は復習として、グループに分かれ投影された画像から学んだ単語を連想し、ゲーム形式で確認した。最終試験に向けて、スピーキングは就職面接で聞かれるような即興でお題に答え、プレゼンをする練習を一週間を通して行った。それは3分間自分の考えをまとめる時間が与えられ、約3分間でプレゼンするというものである。

**Grammar&Writing** : グラマーの教科書とエッセイの二冊の教科書を使用する。グラマーは形容詞節と助動詞を学んだ。各章には練習問題と応用問題が含まれていて、解説を読み、問題を解き進める形式となっている。各章が終わると先生からまとめのプリントが渡され、それが宿題になり、グループに分かれて各々の回答を確認する。正答が不明な場合は先生に質問し解説してもらう。最終試験は、今期学んだ内容の総復習のような問題が出た。エッセイではどのようにエッセイ内で二つのことを比較するかの書き方を学び、宿題として自分の故郷と現在の滞在先を比べての違いと共通点を約3ページにわたり書く、という課題が出た。最終試験では3つのテーマを与えられ各自で書きたいテーマを選び、2ページ以上書くことが要求された。

## 2.2. 予習・復習・自習について

**予習** : **Reading&Vocabulary** 毎週金曜日までに教材として使用している小説の1章を読まなければいけない。また木曜日にはその章に関する宿題が出され、より注意深く読むことが求められる。そうでないと金曜日の授業に全くついていけず、さらにはその章に関する小テストの結果も良くなるからだ。もう一冊の教科書は章が進むごとに必ず新しい単語がいくつか出てくるので、予習でそれらの意味を調べておく必要がある。

・ **Listening&Speaking** 宿題として、指定された動画を視聴しなければならない時がある。その動画は何についてか、語り手の結論、意見は何か等をまとめなければならない。他には新出単語の意味を調べ、問題を解いたりした。

・ **Writing&Grammar** 予習としては指定された問題に取り組み、事前に次の章がどのような内容かを知る問題や実力を試すような問題を解く。また主に宿題で出されるものが次の日の予習につながるものである。

**復習** : **Reading&Vocabulary** 復習は授業内で行われることが多く、教科書の復習は章内の問題ででき、小説の内容の復習は各自で必要な場合に行う。

・ **Listening&Speaking** 復習は自分の家で動画を見返したり、先生がアプリケーションを通して録画されたプレゼンテーションのリンクを生徒に送ってくれるので、それを各自で見つて反省点を振り返る。他には、授業内で参考にした音楽を聴き返したりする。

・ **Writing&Grammar** その日の内容は出された宿題で復習をする。また各章が終わるとまとめプリントが配布され、全て解くことで復習が兼ねられる。

**自習** : 自習は各授業で出てきた単語を日々の会話で使ってみたりすることだったり、映画を字幕付きまたは字幕なしで見ること、また教科書以外の何かしらの読み物を読んでみることに尽きる。

## 2.3. 語学力について

現状でいうと、留学当初から変化は多少感じている。例えば、クラスメイト、勿論彼もアメリカではなく他の国からの留学生だが、との会話が難なくできたりしていることである。これと比べて、自分の英語力がここまで達しているという目安になり得るものを持ってはいないが、留学当初に比べて、ネ

イティブとの会話も少々臆することなく出来ている。問題点はやはり、会話中に出てくる知らない単語や、ネイティブとの特有のスラングを聞き取れないことがあることだ。無論、先生は生徒の英語力を理解して話してくれるのだが、一般の、例えばカフェの店員はそのようなことはないため、彼らが何を要求しているか理解できないことがある。私は比較的まじめに取り組んでいると思う。というのも、渡航前に聞いていた通りクラスには日本人が多く、中にはすでに数ターム過ごしている者もいて、何人かは授業に対して怠惰であったりしたからだ。基本的にテストはほぼ満点であるし、自分の取り組みには満足である。

### 3. 生活について

#### 3.1. 衣食住について

住居*	民間アパート（その他： ）
-----	---------------

ここアーバインを含めた西海岸は5月になると、May Grayといわれるほどに天気は曇りが多く、たまに雨が降ることもある。そのため、4月と比べると多少気温が低くなるため、衣服には注意が必要だ。西海岸の昼時の太陽は照り付けるが日が沈むとともに、気温が下がり、風も冷たく感じるようになる。昼に出かけるときは、日没に備えて、長めのシャツなどの羽織るものも持っているとお勧めである。衣服についてとりわけ、下着であるが気持ち多めに持っていくと、洗濯代も節約できるのでお勧めする。もし、移動手段として車またはバス等の乗り物を使用しないのであれば、短パンを数枚用意しておくとも役立つ。食事は、アパートに住んでいるため主に自炊をする。どこのアパートの近くにもスーパーは必ずあるので、慣れないうちは行く回数を増やし、何が安く売られているかいつ安くなるかを知ると便利である。日本のスーパーとは違って、高いものと安いものが多少違い品質が低いことがあるので注意してほしい。パスタやシリアル等はまとめ買いするとスーパーの割引が適用されるのでお勧めする。また、水道水は体に合わない場合があるので、スーパーで天然水を購入したり、家庭用の少し大きめの飲み物を購入する方がよい。そのため、事前に容量の大きいバッグパックを持っていくと役立つ。

#### 3.2. 課外活動について

大学側が、生徒に向けて課外活動を紹介してくれる。近くの町で行われる夜市や、人気の観光スポットへのツアーも提供している。また、アメリカの人気スポーツであるバスケットボールや野球観戦も活動として参加できる。他にも留学生に関するクラブ活動も行っており、私は J-Best というクラブに参加している。そこでは、日本人の留学生と本学生をつないでくれ、一緒に出掛けたり、ご飯を食べたりし交流を深めることが出来る。クラスメイトの話では、他にも日本人とネイティブとが交流できるクラブがある。休日は、大学の近くにある映画館に行ったり、ルームメイトと出かけたりした。時には、家で Netflix 等の動画サイトを使って、ドラマや映画も観る。人によっては、土日に少し遠くへ旅行するが、平日にクラスがあるため1クォーター終了後の2週間ほどの休みを利用することを勧める。

#### 3.3. 現在までの感想

やはり出身地が違うといえど同じ人間なので、クラスメイトに不満を抱くことがあるが、結局は自分次第なので学ぶ姿勢は変えず、一所懸命に取り組んだと思う。アーバインは他の町と比べると安全である分、これといった娯楽が少ないのが難点ではあるが、思い切って配送システムを利用して、外出し、人と話すことが重要だとつくづく思う。また、神奈川大学からは強く日本人とかかわるなと念を押されたが、私は少しは関わりを持つことも時には必要になってくると思う。というのも、海外旅行も初めて



で、自分に自信がないという人が全くの新天地で違う言語を話して生活することは、とても苦しい時があるからだ。なので、自分で判断して、臨機応変に日本人とも少しの付き合いを持つのも良いと思う。6か月という短い期間であるからこそ、なるべく後悔しないよう時間を、特に土日等の休みを有意義に過ごして、留学に来た目的を見失わないようにして欲しい。

以上

## 神奈川県立大学派遣交換留学修了報告書

所 属	外国語学部	学 科	英語英文学科	3	年次
派遣先大学 (国)	University of California, Irvine (United States)				
所属プログラム・ 学部・研究科	10-week ESL	履修言語	英語		
留学期間	2019年4月～2019年9月				
報告書提出日	2019年10月15日				

### 1. 学修について

#### 1.1. 学期区分

学期	授業期間	試験期間	履修登録するまでの過程
Spring Semester	4月3日 ～6月13日 (10週)	6月10日 ～6月14日	プログラム初日にプレイメントテストが実施された。その結果によってクラスが決定する。レベルは1～7までである。
Summer Semester	6月26日 ～9月5日 (10週)	9月3日 ～9月5日	前期のプログラムを修了すると自動的にレベルが一つ上がるシステム。

#### 1.2. 履修科目・内容

学期	履修科目名	合計時間	履修内容・授業での取り組み
		(内訳)	
Spring Semester	Reading&Vocabulary	41.5時間	授業は毎日あり、午後1時からの50分授業である。教科書1冊とレベルにあった小説1冊を教科書とした。内容は、月曜日から木曜日までは教科書の各章の読み物を読み進めながら、新出単語の意味や品詞、文法等を確認する。また、生徒が分からない単語や文法も逐一確認する。金曜日までに小説を指定された章を読んでくる宿題があった。その後、授業内で各章での人物や場面の様子、会話の内容を確認した。時には、クラスメイトと討論して、各々の意
		0.83(時間/回) ×5(回/週) ×10(週)	

			見交換を行った。また、毎週金曜日の授業の最後には、小説の内容に関する小テストが行われる。中間試験は、読解力を試すもので授業時間内に解く試験だった。期末試験は、読解力の問題と授業内で学んだ単語も出された。試験対策の勉強は、それまでに学んだ単語と熟語の意味と使い方を復習することが主だった。
Spring Semester	Speaking&Listening	75 時間	授業は毎日あり、午後 2 時からの 80 分授業である。教科書は、リスニングのための 1 冊である。内容は、教科書の練習問題を聞いて解き、聞き取れなかった表現や単語を確認していくものであった。教科書の内容に関連したリスニング問題を先生が用いる場合もあった。また、リスニングの練習として TED Talk の映像や、アメリカの Ceinfeld というテレビドラマを鑑賞しセリフの聞き取りや発音の練習として読み合うということもした。発音の練習として他には、英語の早口言葉や留学生が苦手としている発音に特化した授業を行うこともあった。さらに、2 週間に 1 度プレゼンテーションを行った。内容は、5 つの真実と 1 つの嘘、5 日間チャレンジなどで 1 人 5 分の持ち時間がある。期末試験は、リスニングの試験であった。試験対策の勉強は教科書の内容の振り返りやそれまでに学んだ単語の復習であった。
		1.5(時間/回) ×5(回/週) ×10(週)	
Spring Semester	Grammar&Writing	75 時間	授業は毎日あり、午後 3 時半からの 80 分授業である。教科書は、文法用とエッセイ用の 2 冊である。授業の内容は、文法の教科書を進めて、事前に宿題として出された教科書の問題の確認と解説を行う。生徒が分からない所はその場で解説し、授業後にも質問があれば、個別で解説してくれる。文法の教科書の各章が終わると、その章のまとめプリントが渡され、授業内で解き終え、そのプリントを復習することが宿題となる。その後、その章の試験が行われる。また、2 週間ごとにエッセイの授業が行われる。エッセイの授業は、教科書を用いて、エッセイのアウトラインや構成の仕方を学んだ。中間試験は、それまでに学んだ文法の試験で、授業内に解く。期末試験は、文法の試験とエッセイの試験があり、2 日に分けて行われた。文法の期末試験の勉強は今まで
		1.5(時間/回) ×5(回/週) ×10(週)	

			に学んだ章のまとめプリント等を見直し、自分が間違えやすそうな箇所を入念に復習することをした。期末試験のエッセイは、テーマが5つ与えられ、その中から1つを選び指定された書き方で授業時間内に書き終え、提出した。エッセイ対策の勉強は、学んだエッセイの構成を復習することだった。
Summer Semester	Reading&Vocabulary	41.5 時間	授業は毎日あり、時間は午後1時からの50分授業である。教科書は、Reading用の教科書と小説を1冊使用した。Readingの教科書は、各章に入るまえに、先生が内容に関連した話題を導入として取り入れた。事前に教科書を読む宿題と新出単語を調べてくる宿題が課された。授業の内容は、クラスで新出単語の意味と発音を確認し、教科書の文章を読み、章末の読解問題に答えることであった。小説を毎週月曜日までに7章ごとに読み、その章に出てくる単語と各自で分からない単語を調べ、例文を作ることが宿題であった。毎週月曜日には小説に関する小テストが行われた。中間試験は、読解力を問う問題と単語の意味を問う問題がある。それに向けた勉強は単語の意味を復習することであった。期末試験も同様に、読解力と単語力を問われる問題であった。期末試験に向けた勉強は、各章に出てきた単語の意味を復習し、それまでにどのような内容の読み物があったかを復習することであった。
		0.83(時間/回) × 5(回/週) × 10(週)	
Summer Semester	Speaking&Listening	75 時間	授業は毎日あり、時間は午後2時からの90分である。教科書はListening用の1冊であった。授業の内容は、教科書を各章ずつ進め、2週間に1度プレゼンテーションを行う。教科書は、まず概要を読み、音声だけのリスニングを行い、問題を解く。そして、動画を見てメモを取り、問題を解く。最後に、クラスメイトとグループを組み、各章末にある問題について討論する。さらに、留学生が苦手とする英語の発音の授業もあった。また、英語の曲を聴き歌詞を埋めることもした。プレゼンテーションは、1人5分の持ち時間があり、各テーマに沿った発表を行う。テーマとしては、自己紹介を兼ねたブラウンバッグや、異文化間の違いをグループでプレゼンテーションした。期末試験のリスニングは、教科書と関連した内容の問題が出され、質問に答えるリスニン
		1.5(時間/回) ×5(回/週) ×10(週)	

			グや会話を聞いて答えるリスニング、スピーチを聞くリスニングがあった。期末のプレゼンテーションは、how to を紹介する Ignite スピーチを行った。各自の持ち時間は5分であった。準備は、発表する題材を決め、パワーポイントを用意し、それに向けて時間配分や、話し方等を練習することをした。スライドは、12枚程が上限だった。
Summer Semester	Grammar&Writing	75 時間	授業は毎日あり、時間は午後3時半からの90分の授業である。教科書は、文法用とエッセイ用の2冊を使用した。エッセイの授業は、まず構成の仕方、アウトラインの書き方を学んだ後、指定されたパラグラフのみを書く。そして、添削してもらい、返却された後、書き直しもう1度提出する。その後、エッセイを仕上げる。このエッセイも返却後書き直して再提出できる。文法の授業は、各章の文法を先生が解説し、宿題として問題を解いてくる。その翌日、問題の回答を確認し、生徒が理解できなかったところを解説する。各章が終わるごとにまとめプリントが配布され、その問題を解き解答を確認する。中間試験は、それまでに学んだ内容の文法試験である。また、エッセイの試験はそれまでに学んだ書式に沿って、授業時間内に書き終わらなければならない試験である。期末試験は、中間試験までの内容を含む文法の試験がある。そして、エッセイの試験では、書式にあったテーマがいくつか与えられ、各自でどのテーマを書くかを決め、アウトラインを書いたうえでエッセイを提出する試験である。
		1.5(時間/回) × 5(回/週) × 10(週)	

### 1.3. 学修する上で心がけていたこと、予習復習の仕方について

どの科目でも単語力が求められるので、毎日学んだ新出単語は別のノートに単語の意味をまとめて書いた。予習は、分からない単語や解いた問題で分からなかった部分をメモしておき、次回に行われる教科書の内容を確認することをした。また、復習は、先述したが、新出した単語をまとめたり、どんな内容の文法を学んだか確認したり、確認した後自分が分からない部分を明確にし、翌日先生に質問できるようにした。

### 1.4. 語学力について

留学前では、ネイティブスピーカーの会話があまり聞き取れず、はいはいと答えるか、話に合わせて笑う程度であった。また、現地に到着した直後の空港で、ちょっとした買い物をしようとしたが、レジの店員の言った内容もほとんど理解できなかった。また、食料品を買いにアパートに近いスーパー

マーケットに行った時も、レジ袋は必要かの質問でさえも聴き取れなかった。そこで、私はなるべく英語に触れようとこれらに取り組んだ。

- ・ルームメイトと毎日何かしら会話する。

例えば、その日の出来事、日本の文化、ルームメイトの国の文化、週末の予定について等

- ・英語の本を読む。
- ・映画、海外ドラマを見る。
- ・大学のアクティビティに参加する。
- ・クラスメイトと休み時間に会話する。
- ・友達と外出する。

## 2. 留学の成果を振り返って

### 2.1. 学修の成果

Reading&Vocabulary の授業からは、やはり多くの単語とイディオムを学んだ。また、英語の文章を読む際に、留学前に比べて楽に読め、意味が入ってきやすくなった。学んだ単語は、学術的なものから日常生活に使えるものまで幅広く学べた。

Speaking&Listening の授業からは、日々クラスメイトとの意見交換の時間があつたので、積極的に自分の意見を話せるようになった。また、自分の発音が正しいのかもプレゼンテーションの動画で振り返ることができたので、自分の発音を見直し正しい発音を学べた。また、クラスメイトの発表を聞いたり、リスニングの問題を解いたりしているうちに徐々に英語を聞き取れるようになり、ネイティブスピーカーや同じ留学生との会話も臆せずできるようになった。

Grammar&Writing の授業からは、正しく英語を使うことを学んだ。エッセイを書くには正しい文法の知識が必要である。エッセイを書き、返されるたびに自分の間違った文法の知識を正されていくと同時に、様々な英語での表現の方法を学べた。学術的なエッセイの書き方は、アメリカの大学にも現在私が所属している学部にも通用する知識なのでぜひ活用していきたい。様々な表現には、文法もあるが、もちろん単語や熟語も含んでいる。比較的簡単な単語の使用を避け、具体的で適切な単語を学んだ。

### 2.2. 学修面での反省点ならびに留学志望者へ学修面のアドバイス

反省点：自分が配置されたクラスはあまりレベルが高いとは言えず、最初は結果に納得がいかず、少々身を入れていなかった時間もあった。しかし、今思うと留学生に選ばれていること自体が恵まれたことで、自分におごらずにもっと最初から積極的にいけばよかったと思う。

アドバイス：テスト後の自分のレベルが何であっても、そこにいると決まった以上は授業で学べることをできるだけ吸収するべきである。クラスメイトがたまに不満の原因になるかもしれないが、気にせず学業に努めてください。時間は有限です。

### 2.3. 留学生活で得られたもの

成果がどれを指すかにもよりますが、私は多様な国の友達ができただことだと思います。そのおかげで他国の文化を知り、日本の文化を共有すると同時に日本の文化を違った視点から見ることができました。つまり、異文化からの視点を得られたのです。私のルームメイトはサウジアラビア出身で彼とは同い年

であったので、とても気が合い、互いの文化について長く会話を交わしました。すると日本人が抱いているイスラム教の間違った知識があると分かり、イスラム文化がいかに興味深いか知ることができました。同様に、彼も日本の文化に非常に興味を抱いてくれました。こうして異文化と自文化を比較し見つめることで新しい見識を得ました。またアメリカには日本よりも多くのホームレスがおり、ロサンゼルスやサンディエゴといった、都会に行くと目立ちます。それを目にし、アメリカの現状を知りました。私が留学し勉強していることがどれだけ恵まれているかに気付き、自分の将来の道を見定めました。また自己の成長もありました。私はどちらかというと消極的でした。しかしアメリカ留学を達成したことで自信がついたのです。海外に行くことが初めてだったので、こうして留学を終え、日本に戻ってきたという事実から成長を感じられ、将来的にもこの経験を糧に困難があっても乗り越えられるでしょう。

#### 2.4. 留學生活での反省点ならびに留學志望者へ生活面のアドバイス

反省点：金銭面を気にして、少々アクティビティや外出を渋った面がある。せっかくの機会だったので、できることをなるべく多くすればよかったと思う。その点を含め、自分の所持金を考え計画的に使うべきだったと思う。また、留学生とは友達になれたが、アメリカ人の友達を多く作れなかった。アメリカ人の友達を多く作ることで生の英語に触れる機会も増え、アメリカについて知れたのではないかと思う。

アドバイス：カリフォルニア州は、アメリカの中でも比較的物価が高いので計画的にお金を使うとよいと思います。また、自分にとってどんな事が得であるか、経験になるかを考えてください。また、先述した通り、都会に行くと日本では見られない光景が度々あると思いますが、それも異文化体験です。また、大学の提供するアクティビティに参加すると友達も増え、充実した生活が送れると思います。

## 派遣交換留学中の生活等に関する調査

国際センター

記入年月日：2019年10月11日

所 属	外国語学部 ( ) 研究科	英語英文学科・専攻	3 年次
派遣先大学	University of California, Irvine		6 ヶ月間

### I. 留学先での住居について

1	住居形態は 何でしたか？	<input type="checkbox"/> 学内寮 <input type="checkbox"/> 学外寮 <input type="checkbox"/> ホームステイ <input checked="" type="checkbox"/> 民間アパート <input type="checkbox"/> その他 ( )
2	住居形態の詳細を教えてください。	<p>( 3人のルームメイトがいて、それぞれサウジアラビア人、中国人、日本人だった。夏学期の前に、中国人が去り、サウジアラビア人が2人来た。その2人が去った後、アメリカ人が2人来た。部屋はリビング、キッチンと物置の他に、3つある。部屋は、日本人と共有しており、十分な広さであった。リビングもカウチが2つあり、かなり広かった。家具、Wi-Fiは付属していた。また、洗濯機と乾燥機はアパート各棟にいくつかあり、他の住居者と共有であった。)</p>
3	入居時手続き	<p>(渡航前に家賃とデポジットは全てウェブサイトから支払った。到着してアパートのリーシングセンターに赴き、鍵を受け取り、アパートの案内をしてもらった。)</p>
4	費用 (月額)	10万 (円) (食費含まない/月)
5	支払方法	クレジットカード
6	住居に附属する設備	<input checked="" type="checkbox"/> 洗面所 <input checked="" type="checkbox"/> トイレ(共同) <input type="checkbox"/> トイレ(個別) <input checked="" type="checkbox"/> シャワー(共同) <input type="checkbox"/> シャワー(個別) <input type="checkbox"/> 浴槽 <input checked="" type="checkbox"/> 冷暖房 <input checked="" type="checkbox"/> 台所 <input type="checkbox"/> 食堂 <input checked="" type="checkbox"/> ジム <input checked="" type="checkbox"/> 洗濯機 <input checked="" type="checkbox"/> 乾燥機 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (プール、バーベキューコンロ)
7	住居選択方法	<input checked="" type="checkbox"/> 渡航前に申込 <input checked="" type="checkbox"/> 留学先大学の斡旋 <input type="checkbox"/> 友人・知人の紹介 <input type="checkbox"/> 不動産業者・新聞を通じて <input type="checkbox"/> その他 ( )
8	周囲環境	<p>(徒歩で7分ほどのところにスーパーやドラッグストア、レストランがある。その付近にバス停がある。)</p>
9	アクセス	<p>( 大学からは、徒歩で約50分かかる。自転車やバスを使うと20分かかる。バスは定期券が3か月70ドルで買える。)</p>
10	留学中の住居に関して アドバイス	<p>(周りに住んでいるのは学生が多く、夜にうるさい時もあるので注意してほしい。また、自転車はパンクさせられることもあるので、家の中に置くと良い。)</p>
11	引越された方は引越	<input type="checkbox"/> 学内寮 <input type="checkbox"/> 学外寮 <input type="checkbox"/> ホームステイ <input type="checkbox"/> 民間アパート



	し先の住居形態を記入 ください。	<input type="checkbox"/> その他（ ）
12	詳細を教えてください	（ ）

## II. 通信環境について

1	日本キャリアの携帯電話	持参した
2	現地キャリアの携帯電話	現地でSIMカードを購入
3	現地携帯電話の取得手続きの方法	（ 渡航前に、神奈川大学あてに案内が来ていたのでその会社でSIMカードを購入した。 ）
4	自宅のインターネット接続環境	無線（大学または寮へのLAN接続）
5	大学内インターネット接続環境	無線（大学または寮へのLAN接続）

## III. 留学費用について

諸経費（1ヶ月の平均）		
1	宿舍費	1000 （ドル）/月
2	食費	250 （ドル）/月
3	交通費	100 （ドル）/月
4	通信費	50 （ドル）/月
5	娯楽費	200 （ドル）/月
6	図書費	50 （ドル）/合計
7	学用品（教科書など）	200 （ドル）/合計
8	被服費	100 （ドル）/合計
9	医療費	0 （ドル）/合計
10	雑費・その他	50 （ドル）/合計
上記以外にかかった大きな金額の内訳（留学準備期間含む）		
11	出願料・宿舍デポジット	250 （ドル）/合計
12	ビザ申請関連費	30000 （円）/合計
13	航空券代 （休暇時旅行費用は除く）	16万 （円）/往復
14	その他	2000 （円）/合計
15	<b>留学全日程に要した総額（概算）</b>	150万 （円）/合計
お金の持って行き方		
16	<input checked="" type="checkbox"/> 現金（渡航時：10万円）	

	<input checked="" type="checkbox"/> 国際キャッシュカード(銀行名：sbi 住信銀行) <input checked="" type="checkbox"/> 海外送金 <input type="checkbox"/> その他 ( )		
17	<table border="1"> <tr> <td>現地で銀行口座開設</td> <td>した</td> </tr> </table>	現地で銀行口座開設	した
現地で銀行口座開設	した		
18	<table border="1"> <tr> <td>手続き方法・利点・欠点</td> <td> <p>手続きは銀行に行き、案内に従い自分にあったカードを選ぶ。利点は、現地のカードなのでショッピングモールに行ってもATMが必ずあるのでお金の引き出しが楽であること。また、紛失やパスワード変更等の手続きもすぐにできる。欠点は、ATMの手続きが日本のものと少々異なるので最初戸惑うこと。</p> </td> </tr> </table>	手続き方法・利点・欠点	<p>手続きは銀行に行き、案内に従い自分にあったカードを選ぶ。利点は、現地のカードなのでショッピングモールに行ってもATMが必ずあるのでお金の引き出しが楽であること。また、紛失やパスワード変更等の手続きもすぐにできる。欠点は、ATMの手続きが日本のものと少々異なるので最初戸惑うこと。</p>
手続き方法・利点・欠点	<p>手続きは銀行に行き、案内に従い自分にあったカードを選ぶ。利点は、現地のカードなのでショッピングモールに行ってもATMが必ずあるのでお金の引き出しが楽であること。また、紛失やパスワード変更等の手続きもすぐにできる。欠点は、ATMの手続きが日本のものと少々異なるので最初戸惑うこと。</p>		
19	<table border="1"> <tr> <td>お金に関するアドバイス</td> <td> <p>必ず現金は幾らか持って行った方がよい。クレジットカードが使えないお店もあるし、クレジットカードが使えない時に便利である。また、日本の国際クレジットカードを持っていく場合は、紛失や盗難にあった際のサポートがしっかりしているのが良い。</p> </td> </tr> </table>	お金に関するアドバイス	<p>必ず現金は幾らか持って行った方がよい。クレジットカードが使えないお店もあるし、クレジットカードが使えない時に便利である。また、日本の国際クレジットカードを持っていく場合は、紛失や盗難にあった際のサポートがしっかりしているのが良い。</p>
お金に関するアドバイス	<p>必ず現金は幾らか持って行った方がよい。クレジットカードが使えないお店もあるし、クレジットカードが使えない時に便利である。また、日本の国際クレジットカードを持っていく場合は、紛失や盗難にあった際のサポートがしっかりしているのが良い。</p>		

#### IV. 保険・医療について

1	海外旅行(留学)保険の種類	C18 プラン (6か月分で72018円)
2	留学中に病気・けが等をし、通院・薬の処方を受けましたか?	いいえ
3	日本から持参した方が良かったなと思う薬などがありますか?理由は何ですか?	頭痛薬と消化器に効く薬は持っていくべきである。気候の変動や、真新しい環境によるストレスで頭痛は起こりがちであるから。また、水が体に合わなかったり、食生活の変化によって胃腸に負担がかかるから。

#### V. 持ち物について

1	日本から持っていったもの
	<p>昼は暑いので、Tシャツを数枚と短パンを数枚 夜は肌寒い時があるので長袖と羽織れるシャツ、長いズボン 靴2足 日本語の小説 現地で紹介するように手拭 電子辞書</p>
2	現地で購入したもの
	<p>アメニティ関連 バスタオル Tシャツ スケートボード ペーパーブック お土産</p>
3	(自分は持っていかなかったが)日本から持っていったら便利だと思ったもの
	<p>日本を紹介できる小物や写真、動画はあった方がよい</p>

## VI. 留学先で困ったこと

日本とは違い、各ブロックが広く時間に余裕を持って行動しなければ遅刻の可能性もある。また、アメリカはチップ制度があり、レストランでの食事の際はそれも考慮に入れておかなければならない。公共機関は日本のように時間通りに来ることが少ないこと。

## VII. その他、後続の学生へのアドバイス

UCI を希望している学生へ 勉強を一生懸命した分、その倍くらい一生懸命遊んでください。留学を最大限利用して、日本で出来ない事をしてください。後悔はあっても、楽しくなかったと思うことはありません。時間は有限。臨機応変に行動してください。出会いは一期一会です。英語はなんとかなります。